

サウジアラビアって こんなところ！

【その1 怖くない!むしろ気さくな国民性!】

イスラム教発祥の地で、剣の絵柄の入った国旗。あまり近寄りたくない雰囲気を感じませんか?緊張感を持って入国しましたが、そんな不安は必要ありませんでした。街を歩いているとたくさんのサウジ人ドライバーが手を振ってくれ、日本人を歓迎してくれました。日本専属の大会アテンダントをしてくれたシロさん(日本のアニメ大好き!)とサドさん(日本人よりも丁寧な日本語の使い手!)も献身的にサポートしてくれました。

【その2 でもやっぱり厳格なイスラム教の国】

宿泊したホテルにはスポーツジムやスパが完備。渡航でなまった体をほぐすために利用を促しましたが、残念ながら女性は利用も立ち入りもSTOP!イスラム教の厳格さを実感しました。サウジでは女性が運転免許を取得できるようになったのが2018年からとのことで、女性がジムやスパを利用できる日はまだまだ先のようです。

【その3 食材は豊富!でもお菓子は高め】

食べ物はシリアや近隣の国からの農産物が入ってくるので、野菜や果物、豆など新鮮!キュウリはほとんど日本のものと変わらず、美味しくいただきました。ただ、お菓子類は高めでプリングルスは1缶およそ800円!ちなみにお酒もNGなサウジでは、バドワイザーやハイネケンのノンアルコールが意外と安く売られています。

【その4 大会は王族がサポート!】

サウジアラビアは『サ우드家のアラビア王国』を意味します。そのサ우드家の王子が本大会を全面サポート!とても華やかな演出で大会を彩りました。優勝トロフィーはおおよそ3kg!3月に福岡県で開催される全国大会で展示をさせていただきます!



ご支援
ありがとうございました!

ミズノ株式会社
https://jpn.mizuno.com/

JAぎふ
https://www.jagifu.or.jp/

共同カイトック株式会社
https://www.ky-tec.co.jp/



▲ 共同カイトック(株) 代表取締役 吉田建社長と #22 吉村匠海(左から)

JDDBAオリジナルボール
発売開始!



マルチボール用JDDBAオリジナルボールを開発、発売開始しました! JDDBAでは6球1セットを¥15,000(税込+ルールガイド・ゲームガイドつき)で発売中!以下のフォームよりお申し込みください。



◇ コーチングスタッフの【ベストバウト】



吉田 隼也 総監督

Men予選 マレーシア戦

全カ راشュで主導権を握る戦いぶりで見事ライバル撃破。後半の『マレーシアの超速ラッシャー vs #9 前川』のラッシュ対決に注目です。

試合映像



井上 隆示 女子監督

Women決勝 香港戦

予選で唯一破れた香港との決勝戦。#4森の素早いカバーリングが香港の攻撃を防ぎ、終始冷静な試合運びで勝利を引き寄せ金メダルを獲得!

試合映像



小池 吉崇 マネージャー

Mix予選 オーストラリア戦

見事なチームワークで強豪オーストラリアの攻撃を封じた歴史的勝利!

試合映像



一般財団法人 日本ドッジボール協会

〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405

TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840

https://www.dodgeball.or.jp



JDDBA ホームページ



JDDBA Facebook



JDDBA Instagram

スポーツくじ



すべてのスポーツにエールを
https://www.jpnsport.go.jp/



ドッジボールニュース

号外

2024.03



2024 Asian Dodgeball
Championship Riyadh

特集

日本代表女子チーム アジア CHAMPION に輝く★

出場全カテゴリーでW杯出場権獲得!!

選手団長 西村 陽一

2024年1月21日から24日まで、サウジアラビア王国・リヤドにおいて、「アジアチャンピオンシップ inリヤド」(マルチボール種目)が開催されました。アジア圏の8か国(地域)が参加し、競技会場では連日熱戦が繰り広げられ、大勢の観客の声援の中で、アジア各地から集った選手と闘った日本選手団が活躍する姿は、応援してくださる皆様に夢と感動を届けることができたと思います。

日本選手団の活躍につきましては、アジアの強豪チームと熱戦を繰り広げ、表題にもありますとおり、女子・金メダル、男子・銀メダル、混合・銅メダルを獲得し、素晴らしい結果を収め、全カテゴリーにおいてワールドカップ出場権を獲得することができました。これも一重に、これまで並々ならぬ努力を重ね、所属しているチームで技量を磨き続けた選手・指導者をはじめ、多くの関係者の皆様、そして、日本から声援を送ってくださった皆様の後押しのおかげと思っています。

さて、この大会を振り返るとき、とてもうれしい場面を見ることができました。それは、「シングルボールでの国際交流」です。最終日、表彰式が終わり、選手同士でお互いの健闘を讃え合っている

ときに、日本から持参したJDDBA公式ボールでキャッチボールをしている選手たちがいました。楽しそうにキャッチボールしている様子を見ていた他国の選手が、一人一人と仲間に入り、言葉の垣根を越え、笑顔でキャッチボールを楽しんでいました。ボールが1つあれば、国際交流できることを実感できました。

また、城門理事長がWDAのトム会長、ADFのクリス会長及びサウジアラビア王室のサ우드王子と会談を行い、その中で、小学生全国大会の動画を見ていただきながらシングル種目のよさを紹介しました。トップの皆様から、日本と協調しながらシングル種目をアジアカップやワールドカップで採用してみたいという旨の話がありました。

海外で主流であるマルチ種目で、昨年度のワールドカップに引き続き、一定の成果を収めたことをベースに、国際団体での地位向上に繋げて、ワールドカップでのシングル種目採用、最終的にシングル&マルチの両種目で好成績を収めてもらいたいと願うところです。課題は山積していますが、夢を描かないと前へ進めません。選手の熱意に応えるべく、盛り上げていきたいと思います。

最後に、現地において選手をサポートしてくださった、協会理事・国際委員会のメンバー、審判員、スタッフの皆様、そして、戦力分析を含め選手へ適切なアドバイスをしてくださった吉田総監督、井上監督、小池マネージャー、さらに、YouTube配信動画において盛大な応援をしてくださった全ての皆様に深く感謝申し上げます。また、次回のワールドカップでアレのアレを獲得できるよう、これからも応援のほどよろしく申し上げます。ありがとうございました。

ASIAN CHAMPIONSHIP RANKINGS					
U16		WOMEN U21		MEN U21	
1	MALAYSIA	1	HONG KONG	1	HONG KONG
2	HONG KONG	2	MALAYSIA	2	SAUDI ARABIA
3	SAUDI ARABIA	3	SAUDI ARABIA	3	MALAYSIA
MIX		WOMEN		MEN	
1	AUSTRALIA	1	JAPAN	1	HONG KONG
2	MALAYSIA	2	HONG KONG	2	JAPAN
3	JAPAN	3	MALAYSIA	3	MALAYSIA

『感謝の心』『素直な心』『喜びの心』をテーマに、挑む。

category Women キャプテン #6 岩田 晴世



▲ 岩田キャプテン(右) 森美月副キャプテン(左)

令和6年能登半島地震、羽田空港衝突事故の両地震事故ともに被害に遭われた皆さま及びご家族、関係者の方々へ心よりお見舞い申し上げます。

サウジアラビアで開催された「2024 Asian Dodgeball Championship Riyadh」において Mix3位、Men2位、Women1位と言う結果を残し、全カテゴリーでワールドカップ出場を決めました。

どんな状況の中でも大好きなドッジボールができて、また世界最高峰の舞台に挑めることを素直に嬉しく思います。

今大会では「3つの心」を自分のテーマに置いて挑みました。それは、“感謝の心” “素直な心” “喜びの心”です。どれも似たような言葉ではありますが、心の使い方次第で大きく変わります。日本から遠く離れたサウジアラビアでドッジボールができたこと、また沢山の応援と支えてくださった皆様への感謝。そして、嬉しい気持ちや悔しい気持ち、それぞれに熱い思いを持って帰国した素直な気持ちを受け止め、今ある環境を喜ぶことが大切だと再

認識しました。

私自身主将として、日の丸を背負う責任と自覚はもちろん、言動や行動で手本となるように、また意見や考えを一つにまとめるだけでなく、受け入れ認め合い尊重することを大切にしました。まだまだ未熟なところもありますが、女子主将として女子チームをはじめ日本選手団を引っ張れるよう努めたいと思います。

アジア1位になり表彰式で、トロフィーを受け取った時の重みは、責任の重みと同時に次へのスタートだと感じました。日本にドッジボールで世界をとって帰れるようこれからも活動を続けます。

今後も日本のドッジボールの普及・発展に尽力し、憧れの選手になれるよう精進して参りますので、応援よろしくをお願いします。

最後に、日本ドッジボール協会の役員・スタッフ・審判員の方々、そして日本代表の活動に多大なご支援をくださっているDJBFの皆様、応援して頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

サウジアラビア遠征報告

1st
2nd DAY
1月19～20日

成田空港を22時30分に離陸。長時間の機内に備え、着圧ソックスを履いて過ごしたため、足の疲れはそこまでなくサウジアラビアに降り立った。チャーターバスでホテルに向かう途中に見えた建物は造りのデザインがオシャレで目を惹くものばかり。「世界一高いビルがもう少しで見えてくるで」「え、これってほんとに世界一?」「あ、世界で最も高いビルの“一つ”らしい(笑)」和気あいあいと話す選手の表情は和やかだった。



▲ サウジアラビアの象徴 キングダムタワー

シングルルームというありがたい環境で各自体調を整え、朝9時半ごろに朝食。バイキングで野菜や肉、魚、お米にスープと品揃えが良く、個人的にはしっかり補給できるメニューで嬉しかった。正午ごろに会場へ向かい、公式練習開始。国内合宿練習で使用したボールより小さいサイズに変更となったため、感触を確かめながら練習した。その後、Mixの初戦がスタート。

試合の合間にはスタッフさんが準備してくださったお湯で、選手たちは持参したアルファ米やみそ汁など日本食を口にしてひと息ついた。後藤副団長お手製のきゅうりの漬物もさっぱり美味しく大人気!



あっという間に大会最終日。Men・Womenともに決勝戦にコマを進め、どちらも対戦相手は香港代表。同じホテルに宿泊していた香港代表は夜遅くまで試合の動画を見ながら作戦会議を行っていた。

日本は監督・マネージャー・選手間で何度も自発的に話し合った。その結果、女子は見事優勝! 男子はあと一步届かずの結果だったが、男子決勝の応援団には現地のサポーターも加わり、一丸となってエールを送った。「チームJAPAN」を誇らしく思う瞬間だった。

4th
5th DAY
1月22～23日

Last DAY
1月24日



分析と戦術で『レベチマネージャー』と呼ばれる価値を

マネージャー 小池 吉崇

人生で初めて『マネージャー』というポジションを担うことになった。しかも、日本代表のW杯アジア予選でのデビューだ。合宿前から吉田隼也総監督と戦術面の電話会議など、選手として参加したエジプトのワールドカップとは全く異なる視点でアジア選手権を迎えることとなった。



▲ 小池マネージャー(右)

大会当日、自分の弱さに気づいた。ユニフォームだけではなくソックスも膝当ても持参していたのだ。0.001%でも出られるチャンスがあるのならと狙っていたのだろう。

この日までに私がやってきたことは、主に全投球分析とその数値化。エジプトW杯の試合や国内直前合宿での練習試合映像を見返しながらパソコンに入力してきた。いざ試合が始まると、相手の攻撃パターンや日本の効果的なパターンなどを見つけ、監督に報告するのが主な内容であった。しかし、圧倒していく試合展開ではその仕事の必要性もなく、コート横から選手に試合の残り時間や少々テクニク面を伝える程度でしかなかった。

観客の声援とスタッフの全力のサポートに感謝を

category Mix #19 山本 凜

日本代表に初選出され、今大会は自分にとって一生の思い出に残る大会のひとつとなりました。

日本代表として参加するという名誉と緊張感があると共に、経験したことの無い強い責任感も感じ、押しつぶされそうになりましたが、大会全体の雰囲気非常によく素晴らしくプレーしやすい環境で、観客からの声援が私たちに力を与えてくれました。また、大会スタッフの皆さんも全力でサポートしてくれ、私たちが最高のパフォーマンスを発揮できるようにしてくれました。そのサポートに応えるべく自国を代表して戦えることを誇らしく思い、試合に向けてチームメイト同士でお互いを鼓舞し合い、モチベーションの高いまま試合に臨みました。



なか出せずチームの勝利に貢献できなかった悔しさもあります。

次の目標は世界一。ワールドカップでは“山本凜らしいプレー”をして日本中のドッジボールファンに勇気と感動を与えられるようこれからも日々精進していきたいと思っています。応援ありがとうございました。

なぜマネージャーなのか、気持ちの整理がつかないまま岐阜県で行われた代表合宿に参加。選考落ちした者が偉そうにアドバイスするにも関わらず、選手全員が快く受け入れてくれた。そんな彼らのためにも、サウジアラビアまで来た以上、日本チームのために全力を尽くし、『レベチマネージャー』と呼ばれる価値を生み出そうと決意した。

私の大仕事は、試合中ではなくホテルに戻ってからであった。再戦するであろう相手との映像を分析し、数値化する作業だ。これはホテルを出発する数分前まで続いた。その分析から導き出した戦術はまさに詰め将棋。『昨日の戦い方から、今日相手が仕掛けてくるであろうパターンはこれら3つ。それに対して日本が取るべきアクションは…』と頭をフル回転させ、監督に提案していく。

試合会場で忙しかったのは、MenとWomenのカテゴリーが交互に開催するスケジュールからだ。Menの試合が終わり、対戦国との記念撮影の最中にコートを後にしてWomenに合流。選手1人1人に合ったポジティブなワードをかけ、最大限の力を引き出すよう心がけた。この繰り返しの中で、空き時間があれば動画を見返し、即座に分析し、改善点を報告。私はこんなに忙しかった!とアピールして褒めてもらいたいところであるが、エジプトW杯での吉田隼也監督は、マネージャー不在の中、監督兼選手として出場していたのだから驚きである。おそらく分身の術が使えるに違いない。

選手とマネージャーでは、チームとして全力で戦う意識は同じだ。違う点は「試合までに全力を使い、試合中は選手を信じて見守る」という感覚であった。Menは決勝で惜しくも敗れたが、試合終了後に選手たちが吉田監督の次に胴上げをしてくれた瞬間は、共に戦ったという認識を得られた気がした。そして、私はマネージャーの役割を終え、再び選手としてのチームの目標と私個人の『親子で選手として世界選手権のコートに立つ』という夢の実現に集中していきたい。

最後に、マネージャーとしての起用のためJDBAに掛け合ってもらった吉田隼也総監督と、同行するか迷っている時に力強く背中を押してくれた服部勝太主将に、深い感謝と敬意を込めて。これから日本チームと共に歩み、未来に向けて新たな挑戦と勝利を共有していくことが、心から楽しみだ。

今、何が必要かを、自らに問い続けること

category Women #26 田鍋 成美

日本代表としてアジアカップという舞台に立ち、W杯の切符を獲れたことを素直に嬉しく思います。



初めて背負う日の丸はとても重たく、結果を求める厳しさを感じましたが、自分らしくいさせてくれた仲間や応援のおかげで、プレッシャーすらも力に変え、ドッジボールを楽しむことが出来ました。

勝利にたどり着くために自分に求められていることは何か、なぜ私はここにいるのかを考え、時には少しわがままに、マイペースに、いかに心身のコンディショニングを整えて試合に照準を合わせるかを意識しました。その結果として、日本の新しい武器になるという目標を達成し、一つ成長できたのではないかと思います。

大会期間を通して、多すぎるほどの刺激を受け、嬉しい、悔しい、ドキドキ、ワクワク、様々な感情になれたこと、幸せだと感じています。また、先輩選手の熱く、気迫のあるプレーに感化され、誰かではなく自分でやる、自分がやる、という強い気持ちを作り、勝負強い選手になるという新しい目標も見つけることができました。

貴重な経験だったと安直な気持ちで終わらせることは許されません。まだまだと思わせてくれる環境に感謝し、次のステージで戦う準備として、高いレベルで仲間と切磋琢磨し、自分の武器を磨きたいと思っています。そして世界一になって、心の底から「嬉しい!」と喜びたいです。

大会を通して自覚と責任に加え、自分に少し「誇り」を持てるようになりました。

これからも驕ることなく『好きこそものの上手なれ』この言葉を体現し、たくさんの人へ結果で恩返しできるよう※頑張ります! ※造語: がんばる